



HANEDA GLOBAL WINGS

HANEDA GLOBAL WINGS

羽田空港“至近の地”
未来を拓くまちづくり

令和6(2024)年4月改訂

羽田空港跡地第1ゾーン整備事業



大田区

お問い合わせ先

空港まちづくり本部
空港まちづくり担当

〒144-8621 東京都大田区蒲田5-13-14
Tel.03-5744-1650 Fax.03-5744-1528

産業経済部
産業振興担当(イノベーション)

〒144-0035 東京都大田区南蒲田1-20-20
大田区産業プラザPiO5階
Tel.03-5744-1641 Fax.03-6424-9922



大田区

世界をつなぐ羽田空港と大田区

「羽田空港跡地第1ゾーン」は、24時間国際拠点空港である羽田空港に隣接し、高度なものづくり技術を有する中小企業などが集積する京浜臨海部に位置しています。

羽田空港は国際線増便により、海外からの来訪者が大幅に増加しています。「世界と地域をつなぐ」ゲートウェイとしての役割が大きくなり、今後、さらに国内外のヒト、モノ、情報の交流が活発になることが見込まれます。

年間乗降客数 令和5(2023)年

7,830万人

出典:国土交通省「管内空港の利用概況集計表」

国際線 24ヶ国・地域 49都市
最大150便/日(往復)

国内線 49空港 約500便/日(往復)

欧州(7カ国・8都市)

ロンドン、パリ、フランクフルト、
ミュンヘン、ヘルシンキ、
コペンハーゲン、ローマ、モスクワ

中東(3カ国 3都市)

ドーハ、ドバイ、
イスタンブール

アジア(11カ国・地域 18都市)

北京、上海、広州、
青島、深圳、大連、天津、ソウル、
香港、台北、シンガポール、
バンコク、ハノイ、ホーチミン、
クアラルンプール、
ジャカルタ、マニラ、デリー

オセアニア(1カ国 4都市)

シドニー、メルボルン、
ブリスベン、ケアンズ

北米(2カ国 16都市)

ロサンゼルス、サンフランシスコ、
ホノルル、コナ、ニューヨーク、
シカゴ、ミネアポリス、
アトランタ、シアトル、
ヒューストン、ワシントン、
ダラス、デトロイト、
ニューアーク、バンクーバー、
トロント

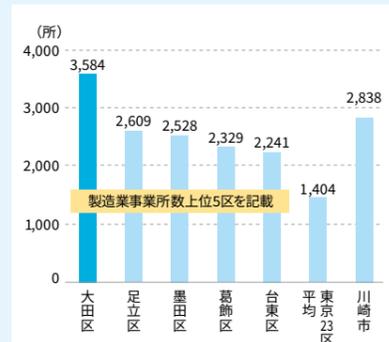
国内

稚内、紋別、女満別、中標津、釧路、旭川、
帯広、新千歳、函館、青森、三沢、大館能代、
秋田、庄内、山形、八丈島、能登、富山、小松、
中部、伊丹、関空、南紀白浜、神戸、鳥取、米子、
出雲、岡山、広島、岩国、石見、山口宇部、
徳島、高松、松山、高知、北九州、福岡、大分、
佐賀、長崎、熊本、宮崎、鹿児島、
奄美、那覇、宮古、下地島、石垣

※出典:国土交通省資料

●大田区内の製造業事業所数

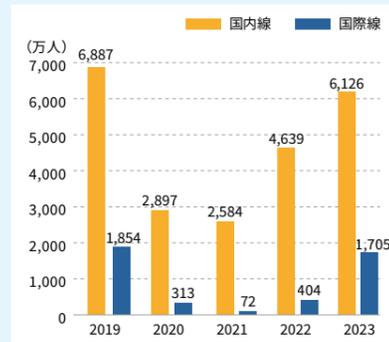
京浜臨海部には高度なものづくり企業が集積しており、このうち大田区内の製造業の事業所数は3,584。特徴として、切削、メッキなどリーディング産業を支える基盤技術を有する企業や研究開発系企業を中心に、東京都特別区や川崎市と比較しても多くの事業所が存在しています。



※出典:総務省「経済センサス活動調査」(令和3年)

●羽田空港の乗降客数推移

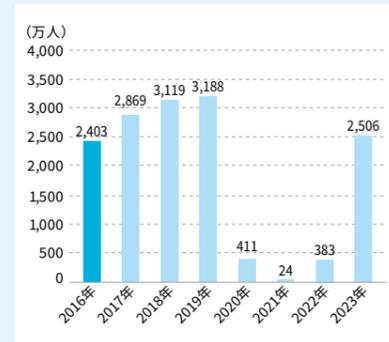
乗降客数は国内線・国際線ともに令和2(2020)年以降新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に減少していましたが、順調に増加しており令和5(2023)年の合計は令和元年と比較し約9割まで回復しています。



※出典:国土交通省「暦年・年度別空港管理状況調査」

●訪日外国人数推移

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2(2020)年以降訪日外国人数は大きく落ち込みましたが、令和5(2023)年には回復傾向にあります。観光立国推進基本計画では、政府目標として令和7(2025)年までに令和元年水準を超えることを目指しています。



※出典:日本政府観光局(JINTO)「訪日外客数」

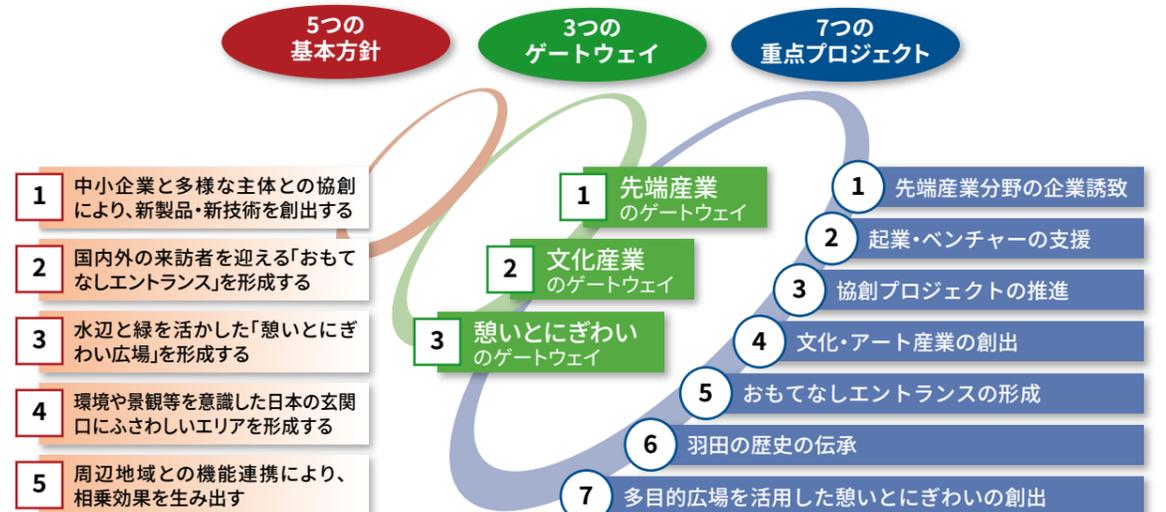
羽田空港跡地 経緯と整備方針

●羽田空港跡地第1ゾーン整備事業経緯

平成22(2010)年	羽田空港跡地まちづくり推進計画 第1ゾーンは、空港・市街地近接性を活かした創造と交流ゾーンとして、産業・文化交流施設、多目的広場等を整備することが羽田空港移転問題協議会(国土交通省、東京都、品川区、大田区)により計画された。	平成29(2017)年	「羽田空港跡地第1ゾーン(第一期事業)」の整備・運営事業者の決定 鹿島建設株式会社を代表企業とする提案グループを事業予定者として決定した。
平成23(2011)年	アジアヘッドクォーター特区 「総合特別区域法」に基づき、第1ゾーンを含む区域が、国際戦略総合特別区域「アジアヘッドクォーター特区」に指定された。	平成30(2018)年	「羽田空港跡地第1ゾーン(第一期事業)」の事業契約締結 鹿島建設株式会社を代表企業とする9社を構成員とした羽田みらい開発株式会社と大田区が事業契約を締結した。
平成26(2014)年	東京圏国家戦略特別区域 「国家戦略特別区域法」に基づき、大田区をはじめとする区域が、東京圏国家戦略特別区域に指定された。	令和2(2020)年	第1ゾーン(第一期事業)まち開き 令和2年7月3日に羽田イノベーションシティがまち開き。9月18日に本格稼働した。
平成27(2015)年	羽田空港跡地第1ゾーン整備方針 第1ゾーンのまちづくりのコンセプトを、世界と地域をつなぐ「新産業創造・発信拠点」の形成として大田区が策定した。	令和5(2023)年	羽田イノベーションシティグランドオープン ゾーンA,B,Cが竣工を迎え、令和5年11月16日に羽田イノベーションシティがグランドオープンした。
平成28(2016)年	土地区画整理事業の施行に関する基本協定 方針及び役割分担等を定める基本協定を国土交通省、東京都、独立行政法人都市再生機構、大田区の間で締結した。		
	土地区画整理事業の事業計画及び施行規程の大臣認可 土地区画整理事業の事業計画及び施行規程の大臣認可を受けた。		
	特定都市再生緊急整備地域 「都市再生特別措置法」の規定に基づき、第1ゾーンを含む区域が特定都市再生緊急整備地域に拡大指定された。		
	民間都市再生事業計画 「都市再生特別措置法」の規定に基づき、民間都市再生事業計画が認定された。		
	スマートシティモデル事業 前年に国土交通省から選定されていた重点事業化促進プロジェクトが、先行モデルプロジェクトに格上げされた。		

●羽田空港跡地第1ゾーン整備方針

世界と地域をつなぐ「新産業創造・発信拠点」を形成 ～ HANEDAゲートウェイ～



HANEDA GLOBAL WINGS

羽田空港跡地第1ゾーン及び第2ゾーンを範囲とするエリア



1 羽田空港跡地地区土地区画整理事業 詳細 ▶▶ P5

2 羽田空港跡地第1ゾーン整備事業 (第一期事業) 羽田イノベーションシティ 詳細 ▶▶ P6

3 羽田空港跡地第1ゾーン整備事業 (公園整備・運営) 詳細 ▶▶ P11

4 羽田空港跡地第2ゾーン整備事業 羽田エアポートガーデン

空港機能をサポートし、空港のポテンシャルを活かすゾーンとして、1,700室超のホテル、展望天然温泉、MICE施設(イベントホール・会議室)、全国の観光都市にダイレクトアクセスができるバスターミナル、約80店の飲食・物販店舗や多言語で免税・配送・館内案内が可能な「おもてなしセンター」がある商業エリアが整備されています。



出典: <https://sumifu-shogyo.co.jp/>

5 ソラムナード羽田緑地

周囲を一望できる「休憩・展望テラス」や「散策路」を整備し、全長2.0kmの緑地が完成しました。憩いのほかに多摩川の水辺観察や、突端部では飛行機を間近に見ることができます。今後は、河川空間のオープン化を通じて賑わいを創出していきます。



6 羽田空港天空橋船着場を活用した舟運事業

民間事業者による舟運を含めた新たな観光ルートの形成や、定期運航などの実施により、羽田空港や空港臨海部に存在する豊かな緑・水辺空間などの魅力発信や空港臨海部の周遊性向上・羽田空港へのアクセス強化を目指します。



7 羽田旭町一帯の施設

空港近接の立地特性を活かし、日本最大級の物流ターミナルである「羽田クロノゲート」、世界最新鋭の航空関連の総合訓練施設「ANA Blue Base」、高度なロジティクス機能を含む複合用途施設「三井不動産インダストリアルパーク羽田」等があります。また、旧羽田旭小学校の跡地において公民連携手法を活用した産業支援施設の整備も進められています。(令和9(2027)年度開設予定)

8 国道357号多摩川トンネルの整備

羽田空港周辺地域及び京浜臨海部へのアクセス向上や拠点間の連携強化、臨海部周辺の交通問題解決のため、国土交通省により、シールドトンネルの施工に向けた立坑工事が進められています。

9 多摩川スカイブリッジの整備

東京圏のビジネス機能と成長戦略拠点の形成を支えるインフラとして、羽田空港跡地地区と殿町地区を結ぶ連絡道路が東京都、川崎市及び国土交通省により整備され、令和4(2022)年3月に開通しました。



10 殿町国際戦略拠点「キングスカイフロント」

川崎市殿町地区では、ライフサイエンスや環境分野を中心とした研究開発により、新産業を創出する殿町国際戦略拠点「キングスカイフロント」の形成が進められています。

羽田空港跡地と第1ゾーン整備事業

「羽田空港跡地」は、羽田空港の沖合展開事業及び再拡張事業の実施に伴って生じた土地です。ここは、羽田空港に隣接するとともに、高度なものづくりを得意とする中小企業が集積する京浜臨海部に位置しています。

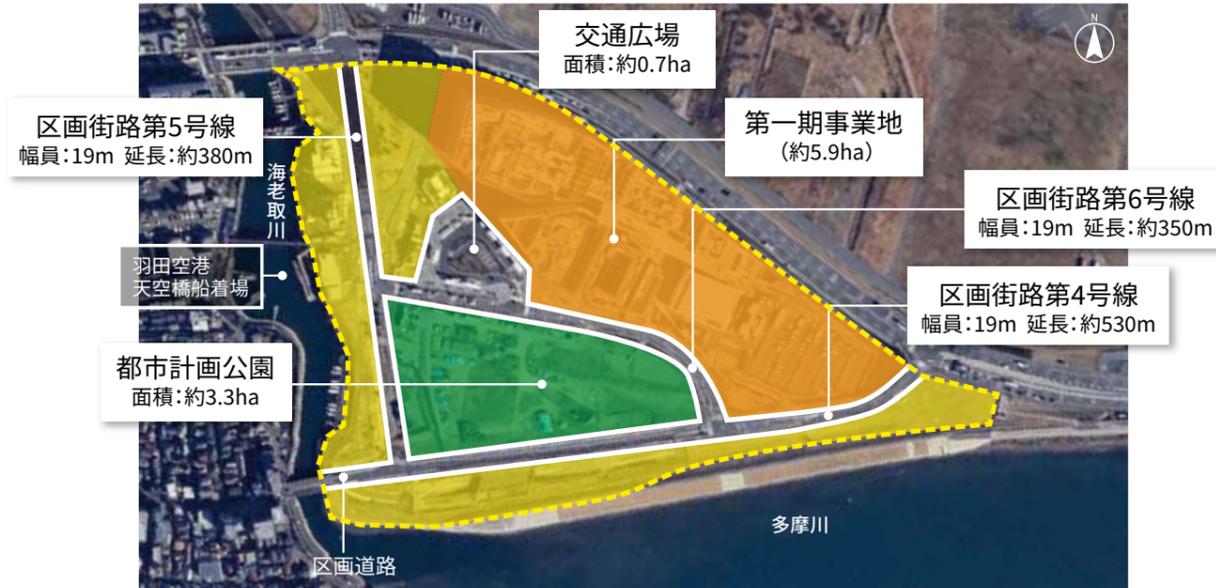
大田区では、こうした立地的な優位性を最大限に活かし、「羽田空港跡地第1ゾーン」を世界と地域をつなぐゲートウェイとして位置づけています。公民連携により、ヒト・モノ・情報を呼び込み、新たな産業を創造するとともに、日本のものづくり技術や国内各地域の魅力を羽田から国内外に発信する「新産業創造・発信拠点」として形成しています。



羽田空港跡地地区 土地区画整理事業

「羽田空港跡地地区土地区画整理事業」では、多摩川・海老取川に囲まれた豊かな自然環境を活かし、多様な機能の導入による活力に満ちたまちづくりの実現に向け、人々の移動を支える交通広場を含む都市計画道路や都市計画公園など、都市基盤施設の適切な配置と整備が進められています。

都市基盤施設の整備イメージ



事業概要

事業の名称	： 東京都市計画土地区画整理事業 羽田空港跡地地区土地区画整理事業
施行者	： 独立行政法人都市再生機構
施行地区の区域	： 東京都大田区羽田空港一丁目及び羽田空港二丁目の各一部
施行地区面積	： 約16.5ha
事業期間	： 平成28(2016)年10月5日から令和8(2026)年3月31日まで
主な整備内容	： 施行地区内における宅地・公園の造成及び交通広場を含む道路の整備
事業計画認可日	： 平成28(2016)年10月5日

都市計画道路の整備

羽田イノベーションシティのまち開きに合わせて、区画街路第4号線、天空橋駅(京浜急行電鉄空港線及び東京モノレール)前の交通広場を含む区画街路第6号線の道路の一部供用開始しました。交通広場にはバス停やタクシー乗降場などを集約して交通拠点としての機能を持たせています。また、広場を魅力的で人を呼びこむ空間とするため、特徴的なデザインの舗装やベンチなどの休憩施設を整備しました。



天空橋駅前交通広場



区画街路第6号線



羽田空港跡地 第1ゾーン整備事業(第一期事業)

羽田イノベーションシティ

羽田空港跡地第1ゾーン(第一期事業)では、地域経済の活性化、ものづくり技術の国際競争力強化への貢献や地方創生を実現する「新産業創造・発信拠点」の形成に向け、公民連携によるまちづくりを進めています。



提供:FOTORECA

まちの名称	： HANEDA INNOVATION CITY (羽田イノベーションシティ 略称: HICity)	航空法による高さ制限	： 水平表面:AP+52.5m、転移表面勾配1/7、進入表面勾配1/50
事業者名	： 羽田みらい開発株式会社(以下9社により構成) 代表企業: 鹿島建設株式会社 構成企業: 空港施設株式会社、京浜急行電鉄株式会社、大和ハウス工業株式会社、東京モノレール株式会社、日本空港ビルデング株式会社、野村不動産パートナーズ株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、富士フイルム株式会社 (五十音順)	延床面積	： 約130,000㎡
所在地	： 大田区羽田空港一丁目1番4号	土地の貸付方法	： 定期借地権方式(一般定期借地権)
面積	： 約5.9ha	貸付期間	： 令和52(2070)年7月まで(定期借地権設定期間50年)
用途地域	： 準工業地域(建蔽率60%、容積率200%)	募集内容	： 先端産業事業・文化産業事業・共通事業について、民間事業者が自らの資金とノウハウで実施する事業
		募集方法	： 公募型プロポーザル方式(提案内容を重視した事業者選定方式)
		実施状況確認	： 事業契約等に基づき大田区がモニタリングを実施

取組内容(事業者:羽田みらい開発株式会社)

目指す姿

世界と地域をつなぐゲートウェイとして国内外のヒト・モノ・情報を集積させ、ここに集う国内外のプレイヤーが互いに交流することによる新たなビジネスやイノベーションを創造するとともに、国内外に日本のものづくり技術や日本各地域の魅力を発信する「新産業創造・発信拠点」を形成します。

取組方針

- 国際的な産業拠点に求められる企業の集積のみならず、羽田空港に近接した立地性を活かし世界のニーズとシーズの集積を図ります。
- ニーズ、シーズのマッチングだけでなく、異なる技術や思想・文化の出会いを促し、交流を育みます。
- 9社のコンソーシアムにより50年にわたって盤石な運営体制・財務基盤を構築し、持続的な成長を果たします。

取組内容

先端産業事業

羽田SOCIAL INNOVATION

未来を創る先進技術と、旧(ふる)くから受け継がれた匠の技が、世界中の人々の生活をより豊かにします。



モビリティ 健康医療 ロボティクス

文化産業事業

羽田JAPAN PRESENTATION

芸術と音楽、文化にあふれたまちが、このまちを訪れる人の心をより豊かにし、大田区・日本各地の親近感を培います。



伝統文化等 観光 食

共通事業

羽田FUTURE BRANDING

地域の憩い・にぎわいの創出とネットワークの充実が、このまちを支えるすべての人の生活を豊かにし続けます。



羽田エリアマネジメント 交通結節機能強化 先端×文化コミュニティ形成



温泉文化 音楽等 芸術



羽田イノベーションシティは、「先端」と「文化」の2つをまちのコア産業として、商業・オフィスをはじめ、多くの特徴的な機能を内包した、未来志向の新たな体験や価値に出会える場所です。

国内外の人々を楽しませるライブホールや文化体験商業施設。イノベーションコリドーに立ち並ぶレストランやカフェ。ふらっと立ち寄って仕事ができるコワーキングスペース。そして行き交う飛行機を満喫できる足湯施設や芝生の広場。宿泊施設もありますので羽田空港を利用する前後にゆっくりと滞在できます。

広い空の下、羽田イノベーションシティで思い思いの時間を楽しんでみてはいかがでしょうか。



憩い



足湯スカイデッキ

無料で利用可能な足湯施設。足湯につかりながら、開放的な空間で青空や飛行機、空港を眺められます。

賑わい



イノベーションコリドー

各施設へとアクセスできるメインストリート。イベント時には日本の伝統文化の発信やマルシェが開催されるなど、楽しい空間に様変わりします。夜にはライトアップされ、昼とは違う幻想的な雰囲気になります。



遊び



アーティストビレッジ

アート遊具が配置された芝生の広場。漁網をモチーフとした遊具の中に入って遊ぶこともできます。イベント時にはアーティストの発表の場としても活用されます。



大田区が設置したイノベーション拠点

区内企業をはじめ、国内外の企業や大学、研究機関、スタートアップ企業などが集まり、活発な交流を通じて新たな産業の創出と発信、区内の産業への波及を目指します。社会課題の解決や新事業創出に意欲のある企業が入居する「テナントゾーン」と、交流からイノベーションを創出するための「PiO PARK」(交流空間ゾーン)があります。PiO PARKではコワーキングの他、イベントや展示など、様々な利用が可能です。



写真はすべて「PiO PARK」



ショーケース
大田区発の製品やオンリーワン技術などをPR



イベントスペース
配信設備も備えセミナーなどの開催が可能



コワーキングスペース
内容や人数に合わせて利用できるワーキングスペース

交流

羽田イノベーションシティを起点としたオープンイノベーションの創出とスマートシティの取組み

大田区の産業は、羽田イノベーションシティを起点に「新産業を創造・発信するまち」という側面に加え、高度な技術を持つ製造業が集積する「ものづくりのまち」という側面も有しています。

この2つの側面が更に磨き上げられるとともに、より強固に結び付くことで、より大きなイノベーションを生み出し、区民の生活利便性の向上や地域課題解決に資する新たな製品・サービスが次々と生み出されることで、区民の生活の質(QOL)の向上につなげます。

また、このイノベーションの流れに、国内外の企業を巻き込むことで、「新産業と匠の技が融合するイノベーションモデル都市」としての地位が確立した姿を大田区として目指しています。



羽田から未来へはばたくおたSDGs未来都市の実現



オープンイノベーションの創出

羽田イノベーションシティ内にあるPiO PARKでの出会いをきっかけとし、区内企業の匠の技を生かした新製品が生まれています。

精密板金加工を得意とする区内企業と、製品開発ニーズを有するセレクトショップ運営企業が「NEWコラボレーション@PiO PARK」にて、オリジナルのアウトドアギアとなる「焚火台」と「ランプシェード」を開発し、製品化されました。

PiO PARKで開催された企業交流イベントをきっかけに、区内企業とスタートアップ企業が連携し、サウナ用電気ストーブの共同開発が行われました。

区内企業とスタートアップの連携により、スタートアップが開発するロボット専用の部品製作が行われました。改良されたロボットは、全国各地で活躍しPiO PARK内にも設置されています。



区内企業 × セレクトショップ運営企業
「焚火台・ランプシェード」



区内企業 × スタートアップ企業
「サウナ用電気ストーブ」



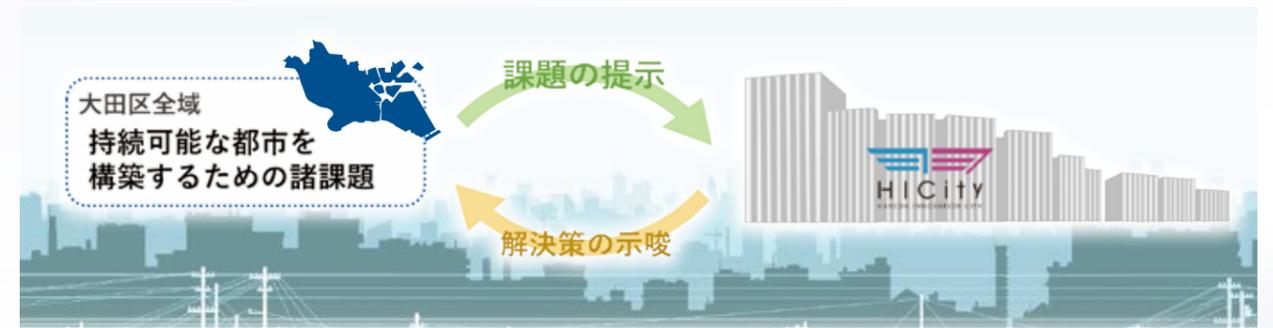
区内企業 × スタートアップ企業
「ロボット用スピーカーホルダー」

スマートシティの取組み

羽田イノベーションシティを地域課題解決の場（テストベッド）と位置づけ、様々な先端技術の実証実験等を行っています。

持続可能都市大田区の形成を支えるスマートシティの構築

解決が困難な社会課題に対する解決策を生み出すため、先端技術を活用した実験の場「テストベッド」となるスマートシティの構築に取り組んでおります。



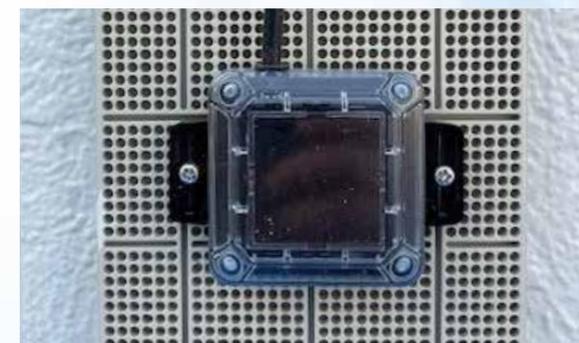
自動運転バスの実証実験

羽田イノベーションシティ内での定常運行による実証実験を重ね、複数回の公道での実証実験につなげています。また、特定条件下で完全自動運転となる自動運転レベル4の実証取組も継続して実施しております。



電池レスデバイスを活用した実証実験

電池レスデバイスを用いて、羽田イノベーションシティ内の交流スペース等の施設利用状況をデータ化し、混雑状況を可視化する実証実験を実施。本取組みをきっかけとして、区内でのがけ崩れ現場での遠隔監視の実施につなげました。



換気制御プロダクトを活用した実証実験

羽田イノベーションシティ内の一室において換気量の自動制御による電気使用量削減の検証を行う実証実験を実施。本取組みをきっかけとして、東京都とも連携しながら、より大きな区内施設での実証につなげました。

	CO2	消費	削減	削減率	評価
4F 事務所 (元レストラン)	525	25.8	39.0	-	良好
1F PiOフロント (旧喫茶店・画廊)	486	28.3	38.1	-	良好
FE-17 給気ファン_ATOM RS485	461	12.3	38.7	36	良好
FE-100 排気ファン_ATOM RS485	473	11.6	41.8	37	良好
HE1-4 全熱交換器_ATOM RS485	504	17.8	34.2	58	良好

羽田空港跡地 第1ゾーン整備事業(公園整備・運営)



第1ゾーンに憩いとにぎわいを創出する公園の整備・運営の検討を進めており、「羽田空港跡地第1ゾーン都市計画公園コンセプトブック」(公園整備にあたり、目指す方向性や公民連携活用、柔軟な運営など、基本的な考え方をまとめたもの)を作成しました。



公園整備・運営について
もっと知りたい方

「コンセプトブック」

●公園の使い方想像図

大田区民のニーズを基に、公園の使い方をイラスト化しました。



●5つの方向性

大田区民のニーズ、跡地の歴史・立地特性から、地域課題の解決にもつなげていく5つの方向性を決めました。



●整備・運営の取組み・進め方

公民連携事業として以下の手順により、整備・運営を進めていきます。



TOPICS

羽田の歴史伝承

羽田空港跡地(羽田空港の沖合展開事業及び再拡張事業の実施に伴い発生した跡地)一帯は、江戸時代末期に開発され、戦前までは行楽地として栄えるなど多くの人々が暮らす「まち(旧三町:羽田鈴木町、羽田穴守町、羽田江戸見町)」がありました。しかし、戦後連合軍の接收により旧三町に暮らしていた3,000人あまりの人々が48時間という短い時間の中で強制退去を余儀なくさせられた土地でもあります。

こうした当時の方々の想いや悲しい歴史は、区の「空港対策」の原点ともいべきものであり、羽田空港跡地第1ゾーンの整備における取組みの根底になっています。



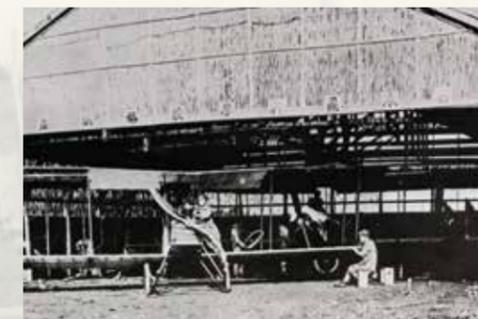
歌川広重「江戸近郊八景・羽根田」



穴守稲荷神社の参道(明治中期)



羽田穴守記念海水浴場



羽田飛行場

出典:大田区立郷土博物館

区の取組み

大田区では「羽田の歴史の伝承」を羽田空港跡地第1ゾーン整備方針の重点プロジェクトの一つと位置づけ、地域や関係者の方々とともに羽田の歴史を次世代に伝える取組みを進めていきます。



旧三町顕彰の碑
(天空橋駅前交通広場)



旧三町復元タイル
(天空橋駅前交通広場)



空中ディスプレイを活用した歴史資料コーナー
(羽田イノベーションシティ内)